



HIROSHIMA CITY UNIVERSITY Language Center

広島市立大学語学センター

Newsletter No.23 (2005.7.29)



第二外国語特集 第2弾

切望のスペイン語開講でパワーアップ！

今年度に入り、韓国の西京大学校との大学間協定の実施やスペイン語の開講と、第二外国語のうれしいニュースが続いています。そこで、NewsletterNo.18(2003年6月)に続き、それ以降に着任された国際学部の第二外国語ご担当の先生方にインタビューをしました。各先生方ともに外国語教育にとても熱く取り組んでおられ、市大ならではの恵まれた第二外国語環境と魅力を改めて確認するものとなりました。

目次：

第二外国語パワーアップ	1
裏切りトンネル訳話 01	2
外国人とチャット	3
コラム：情報 樋脇先生	3
Hiroshima and Peace	4

ルディムナ・クリスチャン 先生(2004年度着任、フランス語I・II、III・IV、フランス文化論)



授業は
留学ながら？

1. クラスについて

フランス語でフランス語を学ぼう！というモットーで、文法など説明が必要な部分以外は、フランス語で授業を行っています。少しでも、会話ができるようになってほしい、というのがこの授業の目的。私は全部わからなくても日本語のテレビを見ていますよ。

2. フランス語学習アドバイス

自習をするときは、できるだけ簡単なものからとりかかることです。例えば、歌を暗記したり、映画を観ること。「塵も積もれば山となる」という慣用句があるように、語学学習には少しづつでもやっていく、意欲と時間が需要！大きすぎる目標を持たないことです。

金 栄鎬 先生(2004年度着任、ハングルI・II、政治学)



ハングル学習は
7割原則で

1. クラスについて

授業は
韓流ブームのおかげでハングルを受講する学生が増えたんですね、とよく言われますが、学生の様子を見るとブームはあまり関係ないようです。地理的に近いことからの隣国への関心や、学びやすい言語であるという理由から受講生も増加しています。受講開始から、約3か月経った現在、生徒の積極性も増している様子です。

2. ハングル学習アドバイス

とにかく、その地域の言語・文化に関心と愛着をもつことです。また、全てを完璧にしようと思うのではなく、7割出来たら次へ進もう！という7割原則を用いて臨むこと。ハングルに限って言えば、文法も日本語とほぼ同じで習得が比較的容易なので、読み書きがしっかりとできれば、自分で勉強しながら学習することが出来ます。jugyou

吉江 貴文 先生(2005年度着任、スペイン語I・II、ラテンアメリカ研究)



岩波新書『外国語上達法』
でコツを得た！

1. クラスについて

今年から初めて第二外国語として加わったため、受講者の半分近くは開講を待ちわびた3・4年生で、やる気がある学生が多いです。現在、市大では9つの第二外国語が開講されていますが、スペイン語はその多様な選択肢の中の1つです。何を選択するか、自分の専攻を考慮し、よく検討するためにも、是非、ガイダンスに来てください。外国語学習についてはそ

こで全てを語っています。

2. スペイン語学習アドバイス

どんな言語でも、必要な文法項目は約10ページに集約されます。よって、その10ページの文法をまずは習得すること、それと、使用頻度の高い基礎語彙1000語の学習を最初の目標にしてください。1日3個ずつ覚えたら、1年で達成できます。

裏切りトンネル訳話 ○1

月の船 星の林に

源氏物語の英語による全訳者にアーサー・ウェイリーとサイデンステッカーの2人がいる。さらにロイヤル・タイラーというドナルド・キーンの教え子でオーストラリア国立大学で教えている人が現在、訳業に取組中だそうだ。タイラー先生の翻訳話を読んだ(芳賀徹編『翻訳と日本文化』山川出版社2000年)。

“もののあわれ”“王朝のみやび”などにとらわれず、光源氏ほか作中人物を「肉体的に生きている人間」とみると、問題は言葉の置き換えなどではなく、原著者、作中人物の心の動き、作品のなかの時間の流れに従うことが大切なことだという。

ところで難問がある。源氏物語には和歌が多い。「序、枕言葉、掛詞、本歌の響きなどは、外国語ではほとんど通じない」。「そのため私は、和歌の場合だけは学問的に正確な翻訳をあきらめる場合が多く(中略)本文との区別がつくように、イタリックにする。」

アーサー・ウェイリーはほとんどの和歌を省略しているそうである。タイラー氏は率直に、「私には、多くの和歌はどうにも英語にはならないように思えて仕方がない。(こういっては悪いかもしれないが、『万葉集』『古今和歌集』の全訳などは不可能に思えてならない)」と言明している。

さて、これは俳句ではあるが、ズバリ、「俳句は翻訳できない」と題するエッセイがある。誰であろう、萩原朔太郎。

「日本の紙の家に住み、畳の上に坐り、味噌汁を啜り、緑茶を飲み、そして尚且つ、先祖代々の伝統する文化に生活せねば駄目である」。「石と金属の家に住んでる欧米人等に、到底如何にしても俳句の理解できる筈がない。(中略)[翻訳は]絶望的に不可能だ。」

同意しますか? ではマンションに住みコーヒーを啜りビールを飲む僕は良き俳句理解者にはなれないのでしょうか。短い引用だけで朔太郎の短慮を攻めて次のようなイヤミを口走るとすれば僕は下品だしまちがっている。そうですとも、“南洋”的“泥”的の家に住む“土人”には理解不可能な極上日本文化ですよね。

実際には米英文化圏で俳句の翻訳は今日栄んでおり、禅と関連してか読者は多い。エズラ・パウンドからサリンジャーまで関心を示す作家も多い。全てとはいえないにせよ、大多数の俳句は英語圏で伝達可能な短詩型文学作品として実績をあげているのである。

キーンの経験談によると、彼から韻(ムーンとジューン、とか)を踏まない俳句、短歌の英訳が始まった(が、彼は音節が五七五になるよう訳した)という。さて次はリービ英雄訳の万葉秀歌。

The capital at Nara
beautiful in green earth,
flourishes now



like the luster
of the flowers in bloom.

あをによし 奈良の京(みやこ)は咲く花の
にほふがごとく 今盛りなり

「源氏物語以上に、松尾芭蕉の俳句以上に、ぼくに最高の感動を与えてくれた日本文学は万葉集だった」(『英語でよむ万葉集』岩波新書2004年11月)

リービ訳では韻も音節も、作為的な仕掛けは全く見えてこない。翻訳という鏡に見えてくるのは<近代>の文章技法にわざらわされていない古典詩歌の、普遍的な世界性である。表現することへの自信に満ち、たとえかなしみを歌っても清く明瞭で、固有の地名に根ざした野太いポエジー。“西洋出身者としてはじめての日本文学作家”による注釈エッセーが、原文、現代語訳、英語訳を往還し、島国、半島、大陸を思索させ、自国の古典ということだけでなくそれ以上の発見を強いる。

「ヨーロッパなどは暗闇の時代、中国の長安に次いで、スケールだけでなく『文明度』という意味でも世界第二の都市だったといわれている奈良。しかも、大陸にひらかれていた島国の都市では、大陸にない感性が大陸にならざる事ばで表わされ・・・。古事記712年、日本書紀720年、大仏開眼749年、懐風藻751年、そして万葉集成立。東大寺法華堂の天平彫刻のすがたも見てもらいたい。国際都市の未曾有の文化誇示。

最も日本語らしい、呪術的古代の幸福感が響く枕詞は訳出されねばならない。「あをによし」はこうなるのだ。リービ自身が朗々と、剛直な確信、豊かな声量で詠じていてみたい。「草枕」はgrass for pillow、「旅人あはれ」はtraveler, alas! 「言靈(ことだま)の幸(さき)はふ国」はa land blessed with the spirit of words,

「日本語がはじめて書きことばとなった時代」のそのことばは「千三百年後の英語に翻訳可能なのだ」とリービは宣する。

もう一つ。シルクロードを歩むラクダと共に地球の運行を嘉する気概。万葉集の人類共有の感性、その世界文学性を示す。見えてくる壮大なイメージの所在。

On the sea of heaven
the waves of clouds rise,
and I can see
the moon ship disappearing
as it is rowed into the forest of stars.



天の海に 雲の波立ち 月の船 星の林に
漕ぎ隠る見ゆ

(芸国斎ワベー)

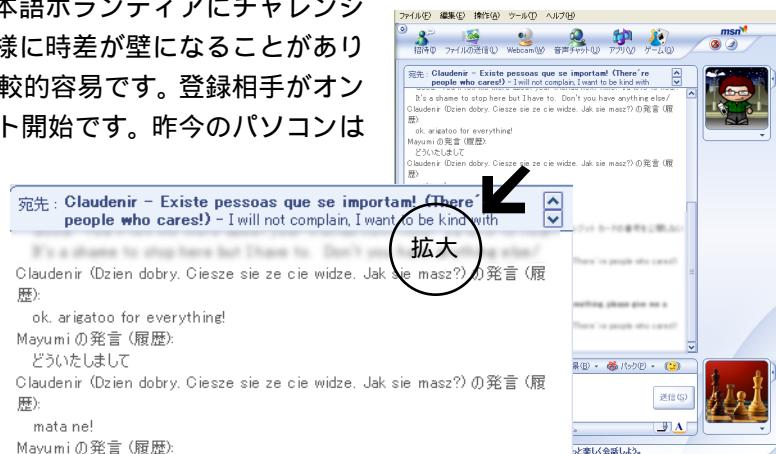
メッセンジャーでブラジル人に日本語ボランティア

語学センター・語学教務員 堀本 真由美

「オンラインで外国人と知り合いたい」。そんな時に一番いいのは、自分の趣味について語ることができる外国のサイトに行くことでしょう。でも、特に趣味がない、というような場合は、外国の日本語学習サイトを訪れるのが良いかもしれません。サイトというと商業色の濃いものも多いのですが、Japanese-online.com は登録無料かつ良心的で、掲示板には日本や日本語について知りたい、日本人とペンパルになりたい、という世界中の人のコメントであふれています。日本語学習そのものはもちろん、マンガやゲーム、J-POP などは、広く世界中から関心が高く、フォーラムでコメントをしてみるだけでも様々な反応を得られます。仲介言語は基本的に英語ですので、英語を使ってみる良いチャンスにもなります。

Japanese-online に登録して数日も経たないうちに、“Please add me to your messenger.” というメッセージが来ました。メールをくれたのは日本語を熱心に独学している地球の裏側、ブラジル在住のブラジル人。メッセンジャーはオンラインでリアルタイムコミュニケーションをするための無料のツールで使用者も多く、チャット(リアルタイムの文字による会話)やファイル交換、音声チャット(電話機能)、ビデオチャット(テレビ電話機能)などの機能が使用できます。日本では遠距離・近距離を問わず国内の友達や家族と利用する、というケースがまだまだ多いのではないかと思うのですが、遠く外国人との多彩なリアルタイムのコミュニケーションを可能にする、どこでもドアツールもあるのです。今では、外国人のペンパル募集者側からメッセンジャーを使用したい、という希望がある事も少なくなく、必須アイテム化している感さえあります。

私もメッセンジャーデビューをして、日本語ボランティアにチャレンジしてみました。チャットでは国際電話と同様に時差が壁になることがあります、ブラジルはちょうど12時間差で比較的容易です。登録相手がオンラインになると画面に表示があり、チャット開始です。昨今のパソコンは標準でマルチ言語対応のため、英語表記だけではなくひらがなや漢字のように、外国人にとっての特殊文字を使用しても支障なく相手側に表示される、というのは素晴らしい発見でした。今後、文字だけではなく音声チャットやビデオチャットも使って、学習の可能性を探ってみたいものだと思っています。(日本人ペンパルが欲しい外国人を語学センター学生用HPで紹介中)



ブラジルでも日本語が表示されている。相手がひらがなを打ってくることもある。

ミニコラム 外国語に想う【17】

「英語サラウンドの正体は」

情報科学部教授 樋脇 治



我が家には、まだ言葉をしゃべり始めて間もない娘がいる。彼女は、英語のビデオ教材を見るのが好きで毎日のように繰り返し見ている。私も傍らのソファーに寝そべりウトウトすることもあるのだが、あるとき、耳の中になにげなく入ってきた音に、まどろみの中にあった私の脳が敏感に反応した。テレビのスピーカーから聞こえてきていた音とほとんど同じ音がリピートされて全く違う方向から聞こえてきたのである。我が家にはサラウンドシステムなどというハイカラなものはない。しっかり意識を取り戻して耳を澄ましてみると、なんとその音は娘の口から発せられていた。まだ母国語である日本語もうまくしゃべれないチビ娘がビデオの中のアメリカ人のおねえさんの発した単語をきれいに復唱していたのである。それは、私がしゃべるカタカナ英語とは明らかに違うまさにネイティブスピーカーの発音(と少なくとも私には聞こえた)であった。

生まれたときから日本語環境にどっぷり漬かってきた私の脳ミソは、耳から入ってくる英語をご丁寧にもカタカナ英語にわざわざ加工してくれる。そのため、今でも、「この英語の発音は、舌を の位置にもってきて、口の形は××にして...」というようなことを覚えるのに悪戦苦闘している。最近、言語を習得する時期がある年齢を過ぎてしまうと脳の働く部位が違ってくることが実験的に示されつつあるが、テレビの画面に映ったリンゴの絵を見て「アップル」などと楽しそうにしゃべっている娘の隣でそれは紛れもない事実であることをしみじみと実感している。



HIROSHIMA and PEACE

Preliminary Workshop 開催！！

語学センター・語学教務員 伊達 美和子

Workshop の狙い！

“ HIOSHIMA and PEACE ”が7月27日(水)～8月6日(土)まで開催される。“ HIROSHIMA and PEACE ”は2003年度から開催され、市大の夏期一大行事となってきている。そして学内受講者を対象に今年から PRELIMINARY WORKSHOP が必修科目として行われることになった。今年は、4月27日から6月29日までの間に計4回行われ、内2回は語学センター新教室が使用された。

国際学部、岩井教授によるとWorkshop の狙いは、1)連帯意識の育成 2)方略的な語学学習(ディスカッションの方法など) 3)語彙(平和・戦争に関する語彙)の習得という3点である。

今年の受講生は学内21名、学外からは29名の、計50名となる予定だ。初参加となるUAE・韓国・スウェーデンなど7か国を含む世界各国からの参加者が半数以上占める今年の講義では、日本人学生の連帯感は、様々な価値観・生活様式を持つ参加者との交流・相互理解になります不可欠となる。

また、普段日本人があまり慣れないディスカッションを英語で行う能力も要求されることから、今回のWorkshopの成果がどのように本番で活かされるかが大いに期待される。

受講者インタビュー

実際の授業の様子について、国際学部4年、高村知加さんにインタビューした。今回夏期プログラム自体に初参加である高村さんは、受講のきっかけから本番に向けての意気込みまでを話してくれた。

Q：授業を受講しようと思ったきっかけは？

A：昨年の夏休みに2ヶ月カナダに行ってから、もっと

英語力を伸ばす必要性を感じたからです。

いろんな人と、恐れずコミュニケーションを取れるようになりたいと思って。

Q：英語でのディスカッションはどうでしたか？

A：英語で自分の意見を表現するのは難しかった。何を言うためには、理由も言わないといけないし。でも、Workshopのおかげで、本番までのモチベーションがあがり、よかったです。

Q：これからWorkshopに対する要望は？

A：4回という回数は少し少なかったかも。もっと、回数があってもよかったです。平和に関する記事を自分で集めて読むという課題があったのですが、どういう記事を探していくか戸惑いました。もっと授業内でもいろんな記事の配付があれば、記事を探す手助けにならんじやないかなと思います。

Q：本番に向けての意気込みは？

A：不安の方が大きいですね。自分がちゃんと参加できるかという面で。

平和への1歩

“ HIROSHIMA and PEACE ”は国際交流を図る、絶好の機会。一人一人が平和の架け橋となるには、まず、自分の意見をはっきり言い、話し合い、様々な国の人たちと友達になることだ。今回のWorkshopが平和の可能性を広げていく第1歩として、意義あるものであったことを期待している。

○掲示板○

新任スタッフからのメッセージ



2005年4月から、寺田武史さんの後任として、新たに着任した、伊達美和子です。寺田さんと同様、私も本学の卒業生であり、現在国際学研究科博士前期課程に所属しています。学生のみなさんには、先輩としていろいろアドバイスしてあげられると思うので、空き時間には、語学センターをどんどん利用しに来てくださいね。

夏休みに機器更新があります

夏休み期間中、自習室を含む、語学センター教室の機器更新が行われるため、自習室に代わり、1教室を開放します。ホールの立て看板で確認してください。

観察報告

4/28 安佐北中学校 80名

6/23 安芸南高校 23名 *他に、6/17 長崎シーガルト大学教員2名、6/28

7/8 五日市高校 50名

6/28 大社高校教員1名

7/14 安芸府中高校 25名

発行日 2005年7月29日

発行 広島市立大学語学センター

〒731-3194

広島市安佐南区大塚東3-4-1

編集 堀本真由美
伊達美和子(内線: 6410)

Phone (082)830-1509

Fax (082)830-1794

E-mail lang@intl.hiroshima-cu.ac.jp

ホームページ

<http://call.hiroshima-cu.ac.jp/lang/index.html>



リナート先生の講義
を受けている学生